

【ねがいましては】

平成20年9月25日

KYOWA SCHOOL

第215号

「同じだ」

あれっ、同じことしてる……。ある日、今年看護学校へ進んだSちゃんがやってきました。パソコンを買ったとのこと。でもまだプリンターを持っていないということで教室へやってきたのです。「先生、レポート書いたので印刷させてもらえますか……。」

どれどれ、と私は校正がてら読ませてもらいました。……。「えっ、ここと同じだ……。」

私が読んだ部分は、フィンランドの教育について書いてある部分でした。

『フィンランドでは、のびのびと自由に、筋の通った教育を生きるためにしているのである。たったひとつの「正解」を覚えることよりも、「みずから考える力」を育てることを教育の中心にしているのである。社会に出たときに直面する問題を解決していく力を育てるためである。また、義務教育が終わる16歳までは、順位をつけたり、他人と比較したりするためのテストはない。子どもの発達や物事を理解するスピードは個人差があるもの。テストの点が悪くても可能性がないというわけではないし、100点でもそれで十分ということではない。ある段階のテストの点数で子どもを判断することは、大人がその子に出来不出来のレッテルを貼ることになる。フィンランドの教育は子どもの気持ちを十分考慮されているものなのだと思います。』（一部を抜粋）

まったく普段私が実践していることと同じだったのです。「あれー……！」

フィンランドといえば世界トップレベルの学力ということで、今日本では一躍脚光を浴びています。その『学力』という言葉が魔物であり、どのお母さん、お父さんも気持ちが動かされるはず。「学力をつけるには、学力を上げるには……」日々悶々とされているお母さんは多いはず。しかし勘違いに気がついていただきたいのです。フィンランドでは学力を上げるべく、先ほどのような教育を始めたわけではないということ。また、日本の方が考えるような『点数』を目標とした学力への取り組みではないということ。子どもの立場になって考えた結果の授業がされていること。子どもたちが生き生きとするような授業スタイルがとられていること。けっして何位になりたなどという目標を掲げているわけではないのです。

つまりフィンランドでは、子どもたちの幸せを考えることからスタートしているのに対し、日本では国際的な学力検査であたふたしている。「どうやって点数上げようか……。」フィンランドでは国家を挙げて皆、しあわせになろう……。日本では以前のような高い学力レベルではなくなったので、あわてて上げなくてはという「国家レベルでのプライド」に固執しているような気がいたします。当然、国民たちの意識も違ってくるでしょう。テストや一斉授業のない学校で、子どもたちは「じっくり考える」というあたり前を身につけます。テストや通信簿など、子どもたちを数値でランク分けする日本では、当然他人の不幸（あの子は私より点数が悪いといいな……）などを公然と思うようになります。私だけが、僕だけがという自己中心的な感情があたり前になっていきます。

夏休みが終わるころ、わたしはきまって子どもたちに声をかけます。「もうすぐ学校が始まるよ、楽しみだね！」実はこれ、私からのイヤミなのです。当然子どもたちもイヤミとして受け取ります。

何かがおかしい。理想は先ほどの私の発した言葉があたり前のように聞こえなければならないはず。友だちに会える、先生に会える、勉強が出来る。そのどれもが本心であって欲しい……。

子どもたちのあたり前なところ……。『前向き』……。希望に満ち溢れ、夢を抱き、へこたれることなく前進するだけ。瞳は爛々と輝き、生き生きとしている。その表情を見ていると、こちらまでうれしい気持ちにさせられてしまう。

しかしここに来るほとんどの子たちが、入塾当初、勉強から逃げを打っています。「できれば楽に点数を取りたい。」「できれば楽に成績をあげたい……。」その子たちを覆いつくすきまった感情です。国の教育方針に自分の物差しを当てはめると、皆同じ感情を抱いてしまうようです。その教育方針をあたり前のように許容したまま、そのものさしで我が子を計り、感情的になって爆発しているお母さんも多いと思われます。（グサッときましたか？）

「先生、学校行きたくない。ここへ来て勉強する。」Nちゃんは元気のない声で言います。

9月に入り、地元の中学校のひとつが定期テストのため、土曜・日曜と2日間「くりたのランチ」をしました。日曜日、なにやら空模様がおかしいのです。大雨になるかも知れない。外は夕方にしては真っ暗です。するとAちゃん、「先生、大雨だったら帰れない、ここに泊まるから。」「あの一僕も泊まります。」とKくん。「えっ、私なんか家族みんな来るよ。」と、Mちゃん。「はあー！」ここはそんなに居心地がいいのかい？

フィンランドでは、各町に図書館があるそうです。それも宿泊施設がついているのだそうです。子どもたちは土曜日、日曜日と、泊りがけで本をむさぼるように読むのだそうです。

そうか、ここでもできることなのかな……。

子どもたちにとって必要なもの……。居場所です。体の居場所はつまり、心の居場所です。

ここがその居場所であり続けるよう、これからも『同じだ』を続けていきます。ありがとね！みんな！